

憲法理念と国民の力量に溝



しかし、そこには人はう身や商なに生れながらに平等だといふ。自然権思想が生れてきました。ただの権限をもつた選挙だけの権力で交代され平和的に権力を交代できません。人々の平等を実現するづくりの取り組みは流れとして王から権力を奪われませんでした。が「フルジヨア革命」で革命に勝利して権力に入った人々は、新しくなりに進みます。べき国の人権を「人権」などにまとめました。が歴史上最初の憲法その次には、憲法の実めさす政治権力が通じてつられています。そのもの関係がこのよのですから、近代の國力はいつでも憲法にと方向つけられていまが立憲主義です。二民主主義と憲法と立憲主義はワンセットで、選挙

いう自
は生ま
ます。
れを広
くおけ
ては、
で、こ
うで、
る社会
議会や
の選挙
をもつ
たる現
実を、こ
そも、そ
うなも
のを手
さうす
じす。
にこじ
ます。

身分制にしばられない「自由権」を手にいました。思想・信条、職業・転居の自由などです。しかし、人々は

憲法は近
代の著者達による結論も、その結果、日本国憲法が優れた理念と国民の民主主義を体現する力量に大きな溝が生まれます。たとえ憲法は、国民の基本的個人を「人類の多年にわたる由獲得の努力の成果」であると書いていますが、多くの日本人にはこれが理解できませんでした。なぜなら、そうした「努力」の多くは日本人にはそれが理解できませんでした。この権利は、2ヶ月ほどでプラン

の人は爆弾が降る毎日だった。しまじまの苦労からようやく抜き出しができる。この平素は何物にも代えがたい生活でした。

しかし、その他の理解は曖昧でした。内容が決まった1945年は、誰もが食うや食う生活です。今のように本中にあり、最後は原爆が降る毎日だった。しまじまの苦労からようやく抜き出しができる。この平素は何物にも代えがたい生活でした。

本当に人権、公共の福祉とづく経済活動の自由限、男女の本質的平等争放棄などを柱とする憲法の骨格を書いています。日本は占領した米国憲法の骨格を書いています。日本はこれを無条件で受け入れて降伏したのにユーティール派と呼ぶ。本の占領と民主的改められた連合国との意

みんなで集まって憲法を読みて考えるゆどひませんでした。憲法のことを読んで考えるゆどひは、なにより改憲を宣傳する政党であります。民衆主義ではなく、保守同士で誕生した内閣は、なにより改憲を宣傳する使命に掲げる政党です。こういう力関係で、たゞ1950年1月に、保守同士で誕生した内閣は、なにより改憲を宣傳する使命に掲げる政党です。たゞ1950年1月に、

憲法が今日までもったもの
は、それは改憲の争点があ
るが、いつも「9条」だったから
です。他の項目はどうあれ、
そこだけは変えてはいけな
い。そういう認識が国民の
大多数のものだったからで
す。

いま、戦争を体験した人
たちは日本社会の一割程度
にまで減っています。平和
が薄れています。しかし、
他方には9条に限らず、「個
人の尊厳」をふくめ日本國
憲法の全体を実現しようと
する新たな取り組みも生れ
ています。日本の民主主義
はいま大きな分岐点に立つ
てあります。（次号に続く）

歓迎されたのは9条

〔ケライシス〕は日本語で「危機」と訳しますが、本来の意味は「転換点」だといいます。まさに今の日本は、民主主義の危機であり、それは同時に転換のチャンスでもあります。日本の民主主義の到達点について、神戸女子学院大学教授で日本平和委員会代表理事の石川康宏さんに寄稿していただきました。（2回連載。下は4月5日号に掲載予定）

日本の民主主義はどこまできたか(上)

は、明らかに「名ばかり憲法」で、内実は近代以前の大日本帝国憲法の發布式（明治22年2月11日）。明治天皇が黒田清隆首相に憲法を手渡した。

